

---

鉾山研究会

# ニューズレター No. 80

2010年4月6日（第1版）

---

- 1 総会のお知らせ
  - ① 総会の日程
  - ② 2010年度の活動方針案 村串仁三郎
  - ③ 会計報告案
- 2 定例研究会のお知らせ
- 3 釜石鉾山跡見学会のお知らせ
- 4 海外鉾山文献読書会のご案内 丸山もとこ
- 5 第27回鉾山の映像を観る会のご案内 丸山もとこ
- 5 夕張通信
  - ① 夕張市はいま 青木隆夫
  - ② 夕張市の産廃処理場建設問題
  - ③ 夕張支援についての提案 村串仁三郎
- 6 書評 川俣修寿

鉾山研究会 連絡先

会長 村串仁三郎

〒270-0127 流山市富士見台2-5-16-13-401

電話・ファックス 0471-52-8952

メール・アドレス [murakushi@par.odn.ne.jp](mailto:murakushi@par.odn.ne.jp)

事務所 国学院大学、若木タワー第913号、菅井益郎研究室

〒150-0011 渋谷区東4-10-28

# 1 総会のお知らせ

## ① 総会の日程

日時 2010年4月24日（土）、1時—5時

場所 法政大学市ヶ谷キャンパス、80年館7階丸会議室

## ② 研究報告

- 1 金丸哲也 「1965年以降の硫化鉱業史」
- 2 土井徹平 「近代鉱山における『飯場』と『友子』の相互関係」
- 3 竹村恒彦 「石炭ストーブの話し」

## ③ 2010年度の活動方針案 村串仁三郎

（前号に掲載につき省略、総会の節は、79号を御持ち下さい）

## ④ 財政について（前号に掲載につき省略）

# 2 定例研究会のお知らせ

日時 2010年5月14日（金）6時—9時、

場所 明治大学お茶ノ水キャンパス、リバティータワー裏、研究棟4階第6  
会議室（場所の分らない人は、案内所か守衛さんに聞いて下さい）

報告者 山田大隆

テーマ 東ドイツの炭鉱産業遺蹟の報告とその後の夕張について

東ドイツの炭鉱産業遺蹟についての報告の要点は、すでに会誌に発表されていますが、書けなかった問題も多く残っているのと、多くの現地写真など見せてもらえるようです。またその後の夕張の状況についても話していただけるとのこと。皆さん方の参加を期待しています。

# 3 釜石鉱山跡見学会のお知らせ

今年度は、7月頃に久しぶりに、研究会主催の釜石鉱山跡見学会を、小野崎敏（元釜石鉱山社長）会員の好意で開催予定です。とくにこの件には、参加者の事前確定が望まれるので、参加希望者は、必ずしかるべき関係者に連絡していただきたい。日程は、総会で確定します。

日程 2010年7月（案）

工程（案）

- 1 日鉄鉱業（株）釜石鉱業所（釜石市の産業遺産）見学

1階は昭和30年代の配置を基本とし、2階は資料室として鉱山沿革、坑

内外道具類・鉱石・製鉄関連資料・写真・絵画・文献等を展示

2 釜石鉱山資料室・見学

3 安政4年（1857）の大橋洋式高炉跡の見学

（日程、会費等についての詳細は参加希望者に追ってお知らせします。）

## 4 海外鉱山文献読書会のご案内

丸山もとこ

近年、国際会議に出席したり、海外の鉱山を見学する機会が増えています。そこで、英語で著された鉱山文献を読み解く勉強会を月一回行っています。文献を通して海外の鉱山史と鉱山事情を学ぶほか、英語の専門用語に慣れることを目的としています。この勉強は海外で活動するうえで欠かせません。英語が苦手という方こそ、奮ってご参加ください。

【テキスト】Spence, Clark C. *Mining Engineers and the American West: The Lace-Boot Brigade, 1849-1933*. 1970. Reprint. Moscow, Idaho: University of Idaho Press, 1993. 次回は p.206 から

【次回】2010年4月19日（月）15:00～17:00

【会場】GIO オーガニックカフェ（港区港南 1-9-36 アレア品川 2F）

【会費】なし ただしテキストは自分で用意してください

※参加希望者は事前に〈[jMrs.dokushokai@gmail.com](mailto:jMrs.dokushokai@gmail.com)〉までご連絡ください。

※5月以降の日程については、鉱山研究会ウェブサイトをご参照ください。

（なお、前回のニュースでは、「丸山ともこ」と誤記してしまいましたが、「もとこ」です。記して謝意の印とします。編集子）

## 5 第27回鉱山の映像を観る会のご案内 丸山もとこ

釜石見学会の企画が進行中ですので、映像の会も「釜石」を特集します！

釜石ふるさと大使の小野崎敏氏のご協力を得て、映像をいくつか用意できることになりました。併せてわたらせ溪谷鐵道（旧足尾鐵道）の映像を上映いたします。わたらせ溪谷鐵道は、旧足尾鐵道の施設（駅舎、トンネル、橋梁など）37件が昨年9月に国の登録有形文化財に答申されました。皆様のご参加をお待ちしております。

【日時】2010年6月26日（土） 開場 13:00, 解散 17:00

【会場】渋谷勤労福祉会館（渋谷区神南 1-19-8）2F 第4洋室（予定）

【会費】 無料

【参考資料】 小野崎敏，古美門佳一郎，川嶋伸行著『写真集 足尾鐵道の一世紀 難問続出の敷設計画から「わたらせ渓谷鐵道」まで 120 年の物語』新樹社，2008 年．

※解散後、懇親会を予定しておりますので、お時間のある方はご参加ください。

※ご意見ご要望のある方は、〈jmrs.eizonokai@gmail.com〉までご連絡ください。

## 6 夕張通信

### ① 「夕張市はいま」 青木隆夫（夕張地域史研究資料調査室）

（本稿は、2010 年 01 月 26 日（火）、北海道の「NHK 視点・論点」で放送されたもののウェブサイトからの転載です。編集子）

4 年前に地域経営の失敗から財政再建団体となった夕張市ですが、今年は、再建団体として 4 年目を迎える他に、新しい法制の下で「財政再生団体」への移行も予定されて、地域の再建・再生に向けた取り組みが続けられています。この 3 年間は、財政破綻をきっかけとした夕張報道の過熱によって、地域の現実がややも実態と異なるイメージとして定着した感は拭えませんでした。

当初、この問題に対して地域の現状が十分理解されないままにメディアが競い合い、ややも冷静さに欠ける、一面的な夕張報道が続けられたといっても過言ではないような気もいたします。ただ、その時の「夕張」という言葉には、市町村が抱える財政状況にもスポットを当て、地方の自治体運営を敏感ならしめたことは、その後の「夕張ショック」「夕張問題」という表現によく現されているようにも思います。

今はその喧騒も過去のものとなり、時の経過と共に街に落ち着きを取り戻されています。この間の夕張は、破綻直後から新しい地域の姿を模索し市民が自立する動きなど、注視すべきものも多く見られるようになりました。

また、自ら関心を持つ大学生が中心となった、市民アンケート全戸調査など、「声なき市民の声」を再生計画に反映させようという、行政にはない取り組みも行われています。

反面、公共施設の廃止や大量の市職員の削減などによる地域機能の低下や、あまりにも長い再建期間の設定、再建後の展望が遅々として見えぬ苛立ちなど、半ば諦めと織交った空気も広がっていることは事実です。地域内の高齢化率は

43%を超え、医療や福祉、教育の再編、地域経済の確立など、4年目を迎える今も課題は限りなく現実問題として突きつけられています。この数年間の動きの中で感じとれることは、債務の返却のみに重点の置かれる現行の再建策では、本質的な問題が解決できないばかりか、更に地域の衰退に拍車をかけるという実態です。夕張市で生じた特殊なケースの財政破綻では、従来の概念での再建計画では対応しきれないことは明白であり、今年提出される再生計画では柔軟性を持つ、斬新な発想での策定が望まれるところです。

夕張市は地域が形作られてから、今年で120年を迎えています。地名の夕張はアイヌ語の「ユー・パロ」という呼び名から転じたものですが、石炭資源の開発という目的が人を集積し、新たな地域集落として成立したものです。近現代の地域の形成として北海道という地域の現在の姿を知る上で、夕張は一つの典型でもあったところでした。

この120年というのは、単に明治23年に最初の炭鉱がつくられてからの経過ですが、今年、夕張が新しい再生の道を歩むことの象徴的な区切りではあるようにも思えます。

その夕張には「夕張、食うばかり、坂ばかり、どんと一発死ぬばかり」という戯れ歌が伝えられています。これは、夕張という石炭産業の下に変遷した地域性と、その環境で生きることの人間性が訴える、諦念にも近い感情表現となっています。

ただ、裏返せば、この環境下にも動じず支えあう、炭鉱地域独特の濃密なコミュニティを土壌と、それに育まれたおおらかな住民気質が醸成された社会が、ここにあったことの証でもあります。夕張が今まで辿った歴史は、何かこの歌に近いものがあるようにも感じられるところです。

私は昨年から私設の「夕張地域史研究資料調査室」を開設し活動を開始しました。近年、財政状況の悪化に苦しむ夕張を含む旧産炭地域では施設や予算、担当職員の削減に伴い、積極的な資料の収集調査、資料の活用等の業務や機能が滞る状況が続いています。

夕張の財政破綻を契機にして、地域の歴史資料を残したいという、ささやかな想いから一人で始めた事業ですが、予想外に協力者も多く、私以上に夕張に関心を注ぐ人たちの想いの大きさを改めて強く受け止めているところです。

この調査室設立のもう一つの目的として、夕張の財政破綻という事象を記録し残したいという希望もありました。既に再建団体となって4年目を迎えようとしていますが、夕張市ではこの破綻に至った経緯や要因など、積極的な形での究明が成されていません。歴史の教訓という言葉が、ここでは十分生かされていないと強く感じざるを得ないところです。正確な判断は後世に委ねること

としても、そのためにも関連の資料の蓄積と記録は行っておかなければなりません。

今後「夕張市史」の刊行が予定できない状況とはなりましたが、この財政破綻という事態も、夕張という地域の中では重要な事柄だけに、目をそむけず直視し記録として残すことの作業も各方面からの支援が続く夕張の、最低限の責務でもあるように思います。今後も市に本来の機能が戻るまでは、スタッフと連携しながらこの作業を続けて行く予定です。

戦前に「炭鉱集落」という図書が出版されています。国内の炭鉱地域の発生から、その特徴、変遷、民俗史までをまとめた本ですが、読み返す都度に啓示されるところが多く今も私の大事な一冊となっています。

この本には「炭鉱集落に於いては、その一生を支配するものは、実に採炭事業の盛衰である。しかもその誕生から老衰に至り、或は死に瀕する経路は比較的短時間に見られる」と序文が添えられています。旧産炭地域では「地域を残す・守る」という言葉の前に、この地域の盛衰の必然が大きな壁となり、それを乗り越えようとする努力には当然大きな負荷を覚悟しなければなりません。夕張は一面、その必然に立ち向かおうとして、それに抗し切れなかった街と言えるのではないのでしょうか。意図的に地域を支え、維持しようとするものの困難さを強く感じるところです。

地域の分権化の動きの中で、地方の在り方が模索されている今、夕張という地域の現況と方向は、今後の日本の社会を見据えて行く意味でも、重要なモデルの役割を担うものだと考えるところです。

夕張には地域の自然に育まれた「夕張メロン」という優れた特産物があります。また、来月開催される「夕張国際映画祭」は、夕張の娯楽文化と歴史性を併せ持つ、市民主体の事業としても定着しています。夕張が舞台となった映画「幸福の黄色いハンカチ」に描かれる人の優しさは、夕張の歴史性が培った地域文化そのものであると感じるところです。

地域の再生という言葉は単に経済や人口を対置する意味ではないように思います。「大きな産業がなくても豊かで、人口が少なくても幸せで、高齢化が進んでも生き生きとした」、市民一人一人が自信を持って生きることのできる環境が前提であり、郷土の歴史と文化への誇りを根底に据えることの、地域アイデンティティーに外なりません。

今から 120 年前に炭鉱を開いた先人たちがどのような道を辿り、これから私たちがどのような道を歩むのか、それを物語るためにも地域の歴史資料の蓄積は不可欠なものであり、本質的な地域再生の土壌となるものと信じているところです。

## ② 夕張市の産廃処理場建設計画問題について 「夕張メロンと夕張川を守る市民ネットワーク」

（本稿は、編者の知人である産廃問題の研究者をつうじて、「夕張メロンと夕張川を守る市民ネットワーク」から寄稿されたものである。人の弱みに付け込んで、産廃場をこっそり押し付けるなど、断じて許し難い行為である。寄稿について関係各位にお礼を記しておきた。編集子）

### 1 夕張の産廃処分場建設計画

「夕張メロン」と「財政破綻」で全国的にすっかり有名になった夕張です。ほとんどの夕張市民に知らせられないまま、何と3年前より2箇所の産廃場建設計画が進行していた。昨年8月に、市民団体の「ゴミ問題勉強会」で初めてこの計画を知る事になった。その産廃場建設計画は以下の内容です。

- ① 夕張大夕張・白金地区の北海道開発局が事業主体の、「夕張シューパロダム」建設に伴う「旧市営ゴミ処理場」の代替・移設による「管理型産廃処分場」建設計画。
- ② 夕張紅葉山・久留喜地区の民間産廃事業予定者による「安定型産廃処分場」計画。

特に②の安定型産廃処分場計画は、源流部の川のそばに巨大な穴を掘り、防水シートも敷かず産廃物と土を交互に埋めるという、安全性に問題が多い処分場計画である。

### 2 この計画の問題点

町を縦断する夕張川は石狩川の源流部に位置し、この河川の水は下流域の市町村の農業用水や、住民の飲料水に利用されていて、流域住民のいわゆる「命の水」となっています。

この2箇所の産廃処分場計画はいずれも夕張川源流に予定されており、この施設からの化学汚染が発生した場合は、健康や生活、産業の面で流域に以下のような被害が予想される。

- ① 下流域の自治体が住民の水道水として利用しており、飲料水の汚染の恐れがある。
- ② 夕張メロン、栗山町の野菜、長沼町・由仁町・南幌町の米など地域の特産物である、農産物の汚染の恐れがある。
- ③ 汚染が発生になくとも、風聞被害による農産物の売上減少の恐れがある。
- ④ ①から③の事由や産廃施設そのもので観光客の減少が心配され、観光産業

に影響を及ぼす恐れがある。

⑤ 土壌汚染や河川の汚染等により、自然環境が損なわれる恐れがある。

### 3 産廃処分場反対活動の取り組みと現状について

夕張市民には、行政や議会からも産廃情報はまったく知らされず、事業予定者の申請業務だけが着々と進行していた。私たちが産廃情報を入手した段階では、道による専門委員会審査も最終局面を迎え、知事への意見書提出の締め切りも迫り、事業認可も近い状況であった。

その中で、私たちは、約1カ月の準備期間を経て、9月に有志による産廃処分場反対の市民団体「夕張メロンと夕張川を守る市民ネットワーク」を立ち上げ、10月より会として具体的な活動を開始した。役員会で活動計画を決定した後は、行政側や市民が驚く位の速さで行動を次々と起こした訳ですが、その活動内容については次ぎの通りである。

#### 主な活動（役員会等は除く）

##### 2009年

- 10.07 「夕張メロンと夕張川を守る市民ネットワーク」発足
- 10.17 産廃処分場反対啓蒙チラシ作成、夕張全戸に配布開始
- 10.22 紅葉山地区における「産廃問題市民出前学習会」開催
- 10.22 市民による産廃予定地現地視察
- 10.23 南部地区における「産廃問題市民出前学習会」開催
- 10.31 夕張市内の産廃処分場反対署名活動開始
- 10.31 メロン農家への産廃反対意見書郵送
- 11.13 夕張市長への産廃処分場反対の要望書提出・記者会見
- 11.13 夕張市議会議長への産廃処分場反対の要望書提出・公開討論会要請
- 11.27 夕張市議会議員への公開質問状郵送
- 12.01 民主党地元衆議院議員への産廃処分場反対の要望書提出
- 12.02 空知支庁長への産廃処分場反対の要望書提出・記者会見
- 12.07 北海道知事への産廃処分場反対の要望書提出・署名簿提出・記者会見
- 12.24 長沼町町長への挨拶・産廃処分場反対の要請
- 12.24 栗山町町長への挨拶・産廃処分場反対の要請
- 12.24 長沼町農協組合長への挨拶・産廃処分場反対の要請
- 12.24 南空知農協組合長への挨拶・産廃処分場反対の要請
- 12.24 紅葉山地区「産廃問題・夕張再生の学習会」開催

##### 2010年



3. 1 4 「夕張メロンと夕張川を守る市民ネット」の総会開催

3. 1 5 産廃処分場計画地周辺の土砂崩落地の調査・撮影

3. 2 4 専門委員会委員長への要望書提出と現場写真提出

#### 4 この問題が抱える問題と特異点について

##### ◆ 行政側の問題

夕張市・夕張市議会とも市民に対し、この問題に対する情報公開が全くなかった事である。夕張の財政破綻も同様な状況で発生し、行政側の情報開示の、行政側の情報開示のあり方が問われている。市民も炭鉱時代からの依存体質を引きずっている上、行政側や労働団体をはじめ各指導団体も、お上意識が残っており、市民に対しての対応が極めて問題があるといえる。

##### ◆ 農業団体の問題

時代が変わり、食に対しての消費者の安全志向が強まり、夕張メロンでさえ味だけではなく安全を訴えていかなければならない時代になったのである。その中においても夕張の農業団体は安全より農業用廃ビニールの処理を優先し、自ら産廃最終処分場の誘致を求めたのである。農業団体としては、全国的にも極めて希なケースである。夕張の場合、農業団体の指導者は、メロン農家だけが特別と考える意識が強いのである。

##### ◆ 夕張市民の問題

夕張市の財政破綻では市民も被害者的な立場でいたが、このニュースを新聞報道で知って驚愕し、その情報を貪るように集め、しばらくは事の重大さに狼狽した。やがて落ち着きいつもの市民生活に戻ったが、この問題の責任を追及することはなかったのである。議会も市民も団体も声を出したり行動したりは誰もしなかった。

炭鉱年金の高齢者が多く、若い人の少ないこの地域で、立ち上がる市民のリーダーがいなかったのである。しかも、村社会の意識の強い地域で各団体は利益団体としてその範疇で活動しており、いわゆる仲良しクラブ的な活動に終始していて、民意を受けての活動や、地域の将来に向けての活動にあまり熱心ではなかった。市民の中でも趣味の団体活動は盛んだが、今でも行政活動に関して住民運動として立ち上がっていなかったのは、炭鉱地域特有の人間性や地域性が原因であると思われる。

#### 5 問題を解決すべく「夕張モデルの提案」の実現を目指す

以上のことから、私たちは産廃処分場建設に反対するだけではなく、上記の夕張の抱える問題を農業団体や行政側と共に共有し、解決を図るべく以下の提案をしていきます。

1、夕張地区や近在の農業者より、廃ビニールを安価で買入れることにより農

- 業者の費用負担の低減を図りながら廃ビニールの回収システムを確立する。
- 2、回収した廃ビニールを、短・中期にわたり利用計画の無い施設や、市内の廃校になった学校などに屋内保管したり、廃校のグラウンドや利用が今後とも見込めない工業団地敷地内に、屋根を掛け屋外保存する。
  - 3、廃プラスチックや廃ビニールを中心とした、リサイクル処理工業団地の集約や誘致を積極的に進める。これを産業として捉え、地域の活性化を図りながら雇用の確保を推進する。
  - 4、リサイクルにより処理された中間部材は輸出や製品工場に出荷する。さらにここで製品開発を行い、付加価値を高めた上で製品として販路の開拓に当る。廃プラや廃ビニールから重油の製造を行い、一般的な燃料や農業用ハウスの燃料として販売・活用する。
  - 5、農林省の助成金を活用し、農家に重油ボイラーの購入・導入を積極的に進める。これにより燃料が安価にて供給でき、農家の経営改善に貢献できる。
  - 6、廃プラや木質ペレットなど、産廃ゴミを資源として活用する事により産廃そのものを地域でリサイクルするという、産廃の循環型処理方法の確立を目指す。
- ◆ これを「夕張モデル」として、自治体や農業団体に提案し事業者の募集をはかりながら、この地域の産業モデルとして実現を目指す。

### ③ 夕張支援についての提案

村串仁三郎

4年前、夕張市の財政破綻で、夕張市石炭博物館の行く末が不透明になり、夕張市石炭博物館の保存、再建についていろいろ提案があり、わが研究会も『金属鉱山研究』第83号で「夕張市石炭博物館存続問題」を特集したり、保存署名活動をおこないました。

夕張市石炭博物館は、最終的に地元観光会社「加森」に引き取られました。しかしその後、夕張石炭博物館は閉鎖同様の運命をたどり、今日にいたっております。

そのため、夕張石炭博物館のこれまで蓄積してきた諸資料の散逸・消滅が危惧されてきました。

わが研究会の古くからの会員である元夕張石炭博物館青木隆夫さんは、「加森」の職員として夕張石炭博物館の維持のために奮闘してきましたが、昨年末に、「加森」を退職して、自力で夕張炭鉱関連の史料の維持・保存のために「夕張地域研究資料調査室」を立ち上げました。

長い間、炭鉱研究にかかわり、夕張についても研究を発表してお世話に

なった一研究者として、青木さんの「夕張地域研究資料調査室」を何らかの形で応援したいと考えました。

青木さんの人柄からして、大げさな支援というのは望むところではないと思われますので、私は、勝手連風に「夕張地域研究資料調査室」を応援したいと思っています。本来膨大な資金を要する夕張の資料収集・維持・管理を半ば自前でやっている青木さんを幾分でも支援できたらいいなと考えています。

提案は、私が「夕張地域研究資料調査室」の支援の窓口（仮称「夕張資料保存事業応援団」となって、友人諸兄姉から、しばらくの間、幾許かの寄付を仰ぎ、「夕張地域研究資料調査室」の活動の一部を支援（せいぜいコピー代か連絡通信費くらいでしょうが）したいと思っています。

こんなわけで、みなさま方に寄付（額は不問）をお願いしたいと思います。下記の住所にお送りいただければ幸いです。

郵便振込先

00170-5-416021 村串仁三郎「夕張資料保存事業応援団」補遺 二つの夕張関係の本が出ているようです。

『夕張 破綻と再生—財政危機から地域を再建するために』自治体研究社。  
鷲田小弥太『夕張問題』、祥伝社新書。

## 7 書評

川俣修壽

『川上村誌・通史編』、B5上製本、同村教育委員会編、2010年3月20日発行。

川上村には2003年4月26日、27日会合宿でお世話になった。その時は、金峰鉦山を中心に見学をした。

同村は1986年2月に「民俗編」を発行して以来、先土器時代、資料編12冊の合計14冊の村誌を発行してきた。今回の通史は、これらの資料を基に通史として編纂したもので、合計15冊に及ぶ大事業を完成させた。

市町村誌は全国に多数存在するが、これほどの大部のものを長期間にわたり編纂した例はまれで関係者の努力に敬意を表したい。

評者個人としても、厳冬期の甲武信岳登山で立ち寄った梓山の公衆トイレに暖房が入りお湯が出た事を今でも覚えている。そこから畑をしばらく行くと、ようやく登山道がはじまる。

本書から鉦山関係の記述を紹介すると、13世紀に「秋山村は古来より砂金

これ有り、発見以来砂金取営業人繁茂し、秋山村始まるもの也、砂金発見は、秋山村と梓山村との合（あい）、字室（あざむろ）や坂の上也、武州中津村の鉾山へ金堀通行の砌一略一祝儀等有之節は砂金を紙に包み見舞いに遣わし」とある。既に秩父との交流もあったようだ。

武田信玄は1536年（天文5）頃、秋山村と川端下村との境の長尾山と梓久保名目平で金山を開発し、枕金24万両産出した記録がある。

1650年代に「梓山・秋山で金筋に当たり、金堀共山稼ぎあり」とか、大深山村鉛山では「75人で鉾石1日22荷ほど産出し鉛1・5kg吹いた」。1667年（寛文7）には、大深山鉛山の記録として「くさり1荷に付き400目程（約1・5kg）右之鉛吹立申炭2俵程使用」とある。

1802年（享和2）9月には、「江戸勘定奉行より、奥州半田銀山代官竹内平右衛門に仰せ付け、金堀与平・戸平兩名を派遣させ、金鑿4乃至5人が、集め置いた鉾石を吹いて銀2分5厘を得た」と半田銀山とも人的交流が頻繁あった様子が古文書からうかがえる。

秩父大滝村とは、十文字峠経由で約28kmの距離で大滝から煙草・塩・桶の輪竹、川上からは米・酒・味噌などの食品、草鞋・蓆を大滝に運んでいた。川上は寒冷地で竹が生育しにくく、桶のたがに使う竹を大滝から運搬していた。秩父鉾山とは、東から掘るか西北から掘るかの違いだけで大きく見ると鉾脈は一つ。もちろん大滝からは、秩父往還を通して甲府とも行き来していた。

平賀源内関係では、1764－81年（明和－安永期）に金山・鉄山の開発を試みたが失敗に終わっている。源内が鉾山開発のときに滞在した幸島（さしま）家の離れは、源内が設計したとして保存され文化財に指定されている。おもしろのは、1771年（明和8）8月に郷里の宮脇又右衛門宛てに「信州蕎麦中川上産が第一」と名産品の蕎麦を贈った記録が残っている。なお、秩父事件には27町村、585人が参加していた。

以上、鉾山関係を中心に紹介したが、主な内容は旧石器から近世初期、文献伝承等から見た古代から近世初期、江戸時代の領主と代官、江戸時代の検地と租税、江戸時代の村の仕組みと出来事、江戸時代の村の生活と治安、江戸時代の農業と林業・鉾山、江戸時代の街道と助郷、江戸時代の災害と救恤、江戸時代の戸口、年表、参考資料で、記述は平易で漢文は読み下しが付いていて理解しやすい。

刼